

臓器移植者から

No. 10

ドナー様、ご家族の皆様へ

拝啓

ドナー様とご家族様の理解のもと、大切な肝臓をいただき、本当に感謝しております。

私は元々B型肝炎のウイルスを持っており、定期的に検査を行なっておりました。一昨年から昨年にかけてインターフェロンの注射を打ち、抗体が出来たため、あとは経過を見ていけばいいだろうと一安心しておりました。

ところが、3月初旬に病院で検査をすると、「即入院」と言われてしまいました。3月中旬に別の病院に転院し、そこで劇症肝炎と診断されました。この時点で私の意識は、ほとんどありませんでした。

ここからは家族に聴いた話ですが、劇症肝炎と診断され、あとは移植しか手はないと言われたため、生体肝移植のために家族に検査をしてもらいましたが、全員移植に適さないということで、脳死移植の登録をしたそうです。一週間後「ドナーが見つかりました」と病院から連絡が入り、移植手術が出来る病院へ転院しました。13時間にも及ぶ手術でしたが、無事成功し、また新たな命をいただくことができました。

意識が戻ったあとで、病院の先生や看護師さんに「移植の手術をして無事成功しましたよ」と伝えられました。しかし、その時点ではまだ『手術?』『移植?』と状況が把握出来ていませんでした。私が意識を失ったあとの状況を家族や看護師さんに説明してもらい、初めて大変なことになっていたのだと知りました。

意識が戻り始めてまだぼんやりしていた頃、家族に移植手術をしたことを教えられたときに、私が「新しく貰った命、なんとしてでも生き抜いてやる」と言っていたそうです。(私自身は薄らとしか覚えていませんが)

今後も拒絶反応や感染症などの問題はありますが、新しくいただいた命を日々大切に、精一杯生きていきます。

提供していただいた方のお気持ち、ご家族様のお気持ちとご理解に深い感謝の念を抱いております。

最後に提供していただいた方のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

敬具